

2022 年度:こども園自己評価の報告書 ともだちこども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・保育課程 ・ 教育環境の整備 ・ 研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「違いを認め合い仲間といっしょにいきいきとした生活や遊びを作り出す～主体的に動き生きる力をつけるために～」を園内研究のテーマとし、子どもの実態を捉え、一人一人の発達段階や個性を大切にした教育保育に取り組んだ。 ・ 「教育保育環境ガイドライン」を公開保育などで活用し、年齢や発達の姿に合わせた活動や援助になっているかなど、自分たちの教育保育の振り返りを行い、次の課題・取り組みへとつなげた。 ・ アドバイザー研修では研究テーマに基づき、講師を招聘し、主体的な遊び、共に育つ仲間づくりについて学び保育教育に展開していった。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症拡大予防の為、園内の消毒（室内、おもちゃなど）、環境整備、園児・保護者・職員の健康観察を行った。また、園児の健康状態を把握し、保護者と細やかに連絡を取り合いながら予防に努めた。 ・ 「ほけんだより」等で感染予防、健康についての情報発信を行った。 ・ 「保険年間計画」に基づき、体の役割や健康についての話をし、薬剤師の協力も得て手洗い指導も行った。絵本などを充実させ、健康への興味関心を高めた。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月、施設の安全点検と避難訓練を実施し、危険箇所や不具合があった場合は修理修繕や修繕依頼など行った。避難訓練では、想定した災害に対しての避難方法を検討し職員間で共有し行った。また、水害を想定しての避難訓練ではセンター上階への避難も経験した。 ・ 1 月 17 日の避難訓練では阪神大震災の写真などを見ながら子どもたちと身を守る大切さについて話をした。その様子を写真で玄関に掲示したことで、送迎時に親子で安全について話し合う姿が見られた。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各クラス栽培活動に取り組み、子ども達は畑作りや植え付け、成長や収穫の喜びを経験した。育てた野菜でクッキングを行い、給食に入れるなどして味・匂いなどにも興味を示し、食に対する関心が高まった。取り組みは玄関掲示するなどして、保護者にも伝えた。 ・ 地域の取り組み「手作りおやつ講座」では、プランターで育てた野菜などを使って技能職員が中心となり野菜クレープを作った。親子で調理したり味わったりでき、いい体験ができたという感想が聞かれた。
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園している子どもの保護者 ・ 地域の子育て家庭 ・ 地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人懇談やおたより、取り組みの掲示などでの教育保育の発信に加え、感染対策を取りながら、クラス懇談や保育参加を行った。親子で活動を楽しんだり保護者同士が子育ての話をしたりする場が持てたのが良かった。 ・ 地域子育て支援センターは、感染対策をして開いた。感染症の広まりで地域事業を中止した期間もあったが、再開を心待ちにする声が聞かれ、地域事業の必要性を感じた。誕生会やびよびよなどで少しずつ園児との交流を持った。園の子ども達も地域の親子も楽しんで交流でき、交流の必要性を感じた。 ・ 子育てサロンに5歳児が参加し活動したことは、子どもたちの自信につながり、地域の方にも喜ばれた。

<p style="text-align: center;">教育・保育内容</p> <p>・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を見据えて園内公開保育を実施し、職員で意見交流し教育保育の点検を行った。 ・子どもの現状から、子どもが主体的に遊び、生活していくための環境づくりや感染症対策を取りながらの活動内容を検討し、年間・月間指導計画を立て、教育保育を実践した。年度末の総括では、各クラスの次年度の課題を明確にして共有した。 ・全職員が、『保護者集団』『人権・命』『伝承行事』のグループに分かれ、教育保育の中で大事にして伝えたいことを議論し取り組んだ。また、テーマに沿った絵本の貸し出しや、子どものつぶやきを掲示する事で園と家庭で共に子どもの思いを考え気付くことができた。
<p style="text-align: center;">特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の支援計画」を保護者と共に作成し、個々の子どもの特性を踏まえ、集団の中での育ちを大切に考え、教育保育を進めた。 ・児童発達支援センター等と連携し、専門家からのアドバイスを受け支援の内容の充実を図った。
<p style="text-align: center;">職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー研修で講師からいただいたアドバイスを教育保育の取り組みに活かすことができた。 ・公開保育後に意見交流を持ち、自分たちの教育保育を振り返り、子ども達の生活や遊びのさらなる保障のために人的環境・物的環境を考え教育保育の質の向上に努めた。 ・人権研修では、差別についての実体験やCAPの取り組みなどに参加し、差別をなくすために自分たちにできることは何かを考えあつた。
<p style="text-align: center;">幼保こ小中の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携会議に参加し克明小学校、箕輪小学校、第5中学校、翼、とよなか人権文化まちづくり協会と地域の情報を共有した。 ・感染対策を取りながらの小学校との交流が再開し、5歳児の緊張しながらも期待して張り切る姿が見られた。
<p style="text-align: center;">関係者評価の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会を3回開催した。1回目3回目は集合開催とし園行事を見学し、実際の子ども達の様子を知ってもらい、豊中市立ともだちこども園の目指す子ども像やともだちこども園が大切にしたいことについて報告をすることができた。評議員の方からは、学校・地域などそれぞれの機関での現状や取り組みについて聞き、情報交流をし、課題などを共有した。
<p style="text-align: center;">その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を取りながら園行事への参加をどうするか、どのように取り組むかなど、職員間で検討し合いながら進めることができた。 ・保護者アンケートを来年度の園運営につなげられるように検討する。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育・保育の質の向上	こども理解を深め環境設定や子どもが主体的に活動するための教育・保育の充実を図る。
職員の資質の向上	アドバイザー研修、人権研修で職員の気づきや学びを深め、意見交流をしながら、自分たちの人権意識を高めていく。

令和5年（2023年）3月31日
豊中市立ともだちこども園
園長名 藤井 典子